

C型肝炎ウイルス簡易検査の結果について

結 果	内 容
陰 性	C型肝炎ウイルスに感染している可能性は低い(※1)ことを示しています。 ※1 C型肝炎ウイルスは日常生活で感染することはほとんどなく、一度検査を受けて陰性であれば、一般的に再検査の必要はありません。ただし、感染直後の検査の場合は陰性となることがあります。今後症状が出たり、肝機能検査が異常値を示したりした場合は、肝疾患専門医療機関を受診することをお勧めします。また、今後のために今回の検査日と検査結果を記録しておきましょう。
確認検査 が必要	今回の簡易検査では、あなたが「感染していない」と確定することはできませんでした(※2)。精度の高い確認検査(※3)には、別途採血が必要です。採血日程を調整しますので、保健所保健医療企画課（0532-39-9104、平日9：00～16：00）に直接ご連絡ください。 ※2 検査の性質上、一部の方は、体質的に「感染していないにもかかわらず、感染しているかのような検査結果」が出ることがあります。 また、抗体は検出されるけれども、ウイルスには感染していない場合（過去に感染して治った場合）もあります。 ※3 確認検査では、より高精度のHCV抗体検査で抗体価を測定し、それでも結果判定できない場合にHCV核酸増幅検査を行います。この検査では、血液中に存在するC型肝炎ウイルスを増幅させることで感度良くウイルス遺伝子（HCV-RNA）を検出して、感染の有無を調べます。

【C型肝炎の検査について】

あなたが受けた検査はHCV抗体の検出です。

この検査は、C型肝炎ウイルスそのものの検出ではなく、C型肝炎ウイルスに感染した場合に血液中に作られる抗体の有無を確認することによって、C型肝炎ウイルスの感染を調べています。

<C型肝炎に感染しないために>

C型肝炎ウイルスは主に感染者の血液に直接触れることによって感染しますが、感染力は非常に弱く、日常生活で感染する可能性は低いです。感染予防のために以下の点に注意してください。

- 歯ブラシ、カミソリなど血液が付いている可能性のあるものを共用しない。
- 他の人の血液に触るときは、ゴム手袋を着ける。
- 注射器や注射針を共用して、薬物（覚せい剤、麻薬等）の注射をしない。
- 入れ墨やピアスをするときは、適切に消毒された器具であることを必ず確かめる。

<C型肝炎に感染すると>

C型肝炎ウイルスに感染しても自覚症状はほとんどありません。多くの人が持続感染の状態になり、慢性肝炎から一部の人では肝硬変、肝がんへと進む場合があります。しかし、適切な治療を行うことによって病気の進行を止めたり遅くすることができますので、感染していることが分かった場合には、必ず肝疾患専門医療機関を受診してください。